

空港の保安検査場では 『X線検査以外の代替検査』を お願いしてください



保安検査員にガラスバッジと空港手荷物検査回避説明カードを提示する際の一例

空港の手荷物検査装置の高度化（CT型のX線検査装置の導入）に伴い、ガラスバッジ・ガラスリング・ドジリスを手荷物に入れたまま保安検査を通過させると多くの場合、有意な線量が検出されるようになりました。つきましては、下記の手順を参考に空港の保安検査場でX線以外の代替検査を願い出るようお願いいたします。

X線検査を回避するためにやるべきこと

Step.1

チェックインカウンターで預ける荷物にガラスバッジを入れている場合、ガラスバッジを手荷物に移動させる。

Step.2

保安検査場で手荷物からガラスバッジと空港手荷物検査回避説明カードを取り出す。
空港手荷物検査回避説明カードは裏面のQRコードからダウンロードできます。

Step.3

保安検査員にガラスバッジと空港手荷物検査回避説明カードを提示し、下記内容を伝え、X線検査以外の代替検査をお願いする。

※ 代替検査実施により通常より時間が掛かることも予想されます。そのため、余裕を持った保安検査の通過をお勧めいたします。

代替検査の依頼時に説明する内容

1. ガラスバッジは、放射線を扱う人の作業中の被ばく量を積算する放射線測定器である。
2. 手荷物検査でX線を照射されると、被ばく量として積算されてしまい、作業中の被ばく量を正確に把握できなくなる。
3. 日本保健物理学会が国土交通省および保安検査の実施主体の協力を得て作成したガイドラインに基づき、X線検査以外の代替検査を希望している。

X線検査以外の代替検査を認めてもらえなかった場合、保安検査員の指示に従うようにしてください。

空港手荷物検査回避説明カードの事前準備

印刷用またはスマホ表示用のいずれかのQRコードを読み取り保存してください。

●印刷用の場合



印刷用(2枚分)
形式：PDF

保存したPDFをA4用紙にカラーで両面印刷し、印刷した用紙を上下2枚に切り分けてください。

表面が保安検査員に説明する際に提示するカード、裏面が放射線業務従事者の皆様に向けた説明内容の構成になっています。

●スマホ表示用の場合



スマホ表示用
保安検査員向け
形式：JPG



スマホ表示用
放射線業務従事者向け
形式：JPG

保存したJPGが保安検査場ですぐに表示できるようにお気に入り登録や保存場所を工夫する等することをお勧めします。

保安検査員に説明する際に提示するカードと放射線業務従事者の皆様に向けた説明カードの2種類がありますので、お間違いのないようご注意ください。

*1 空港の保安検査において、手荷物検査によるX線のばく露の影響を差し引くために、ご自身が装着するガラスバッジと一緒に持ち運ぶ線量計です。

*2 自施設の放射線管理室など人工的な放射線の影響のない常温・常湿の場所に保管し、バックグラウンド（自然放射線）の値を差し引くための線量計です。

ガラスバッジをX線検査に通した際の対応

ガラスバッジを預け荷物に入れたままにしてしまった場合やX線手荷物検査に通してしまった場合、放射線業務による被ばく量を正確に把握できなくなる可能性があります。自施設の放射線管理者が線量推定の必要性を判断できるよう状況を報告するようにしてください。この際の報告項目は下記内容を参考にしてください。

●放射線管理者への報告事項の一例

- いつ、どこの空港で？
- X線検査を何回受けたか？
- X線検査装置はCT型であったか？
保安検査場でPC等をカバンから取り出し不要な検査装置がCT型である。
- X線検査を受けた線量計はどれか？
ガラスバッジ（胸部用/腹部用/頭頸部用）、ガラスリング、ドジリス、コントロール
- 訪問先施設での主な放射線業務内容は？
- 自施設から電子式線量計を持参したか？
持参した場合、訪問先施設における測定値は？
- 訪問先施設で受動形個人線量計、電子式線量計の配布はあったか？配布があった場合、その測定値は？
- 訪問先施設で同一期間に同様な作業を行った者はいるか？

ガイドラインで推奨していない事項

『受動形個人線量計の空港保安検査対策ガイドライン』では、X線検査の対策および線量の推定に関して、下記方法は推奨されていません。

- X線遮へい袋または輸送確認用線量計*1を使用した対策
- ガラスバッジと一緒に電子式線量計またはコントロール用線量計*2をX線検査に通し、ガラスバッジの測定値から電子式線量計またはコントロール用線量計の測定値を差し引く推定方法

〔免責事項〕

本資料の内容は、関連する法令やガイドライン等の改定のほか技術進歩に対応させるため予告なく変更する場合があります。また、本資料または/および空港手荷物検査回避説明カードに起因するいかなる損害についても、株式会社千代田テクノルは責任を有しません。ご利用者の責任のもと、ご活用ください。